

第7回福岡博多湾アクアスロン

野村 高広

令和4年7月24日、第7回福岡博多湾アクアスロンに参加した。この大会は日本国際オープンウォータースイミング協会が主催している大会だ。同協会はオープンウォーター、アクアスロン、夕焼け絶景マラソンを全国で展開している。私はこれまで夕焼け絶景マラソン（昨年と一昨年）に参加したことはあったが、アクアスロンは初めての参加であった。場所はマリナタウンのビーチ。過去に出場した夕焼けマラソンもここで行われた。

7月23日（土）にオープンウォーター、翌日にアクアスロン（ショートの部、ロングの部）が開催され、私はロングの部（S1500m、R10km）に出場した。ちなみにショートの部はS500m、R5km。当日、このショートには43人が参加、そしてロングは80人が参加していた。また、ロングにはスイムだけの部（ランはしない）も11人参加している。

天候は曇り（時々晴れ間から厳しい日差しが肌を焼き付ける）、海は凧、最高の大会日和だ。1週間前の門司港スクエア SWIM&RUN は波のうねりがひどくて最悪だったので、この日は海の恐怖を感じることなく泳げるだろうと安心していた。

受付で黒いスイムキャップを受け取った。こんな目立たないキャップ、意味あるんかい！と叫びたくなった。ショートのスイムキャップは蛍光ピンクでとても格好いいのに。

受付後、たっぷり時間があるので日陰で休んでいると、心地よい風が吹き抜け、寝転がっているとあまりにも気持ちよくてうっかり居眠りをしてしまった。妻が同伴していたが彼女も1時間ぐらい熟睡していた。

<スイム>

先行して行われるショートの部のスイムは500m。だから1周500mのコースが設営されていた。1500mのロングの部は疑いもなく3周するものだと思っていた。しかしそうではなく、何とショート終了後に1周750mのコースにブイが移動されてしまった。既に500mの距離を見てしまっているのに、延長されたコースはとても長く思えた。また、1周終了後に一度砂浜に上がることなく連続して泳ぐらしい。スイムが得意ではない私は、できることなら、一度、浜に上がりたかった。

水温は28度。ウエットスーツは要らない水温だ。また、ウエットスーツ着用は義務づけられていない。そのためか、実際に着用している人の方が少なかった（日に日に加齢を感じている私は、どうしようかと迷うことなく着用した）。

スイムチェックはずいぶん時間がかかった。担当者が1人だったためだ。こちらはウエットスーツを着ているので、待たされる時間がとても暑かった。

いよいよ、スタート。エイエイオーではなく（笑）あっという間に始まってしまった。時間差スタートではないため、バトルを避けるため最後尾から泳いだ。案の定、前の方はバトルだ。私も後ろから泳ぎ始めたにも関わらず、遅い人もいたので、結構バトルだ。

このバトル、何とかならないものかと、いつも思う。特に暴れる人、斜めから突撃してくる人、平泳ぎで顔をけってくる人、息継ぎのタイミングが同じで顔を上げるたびに視線をあわせる人、本当に迷惑だ。海は広いのだから、あっちで泳いでよ！と思う。

そうこうしているうちに2周目に入った。心肺も落ち着き、少し余裕ができたのか、海が浅いことに気付いた。底が見える。そういえば、以前行っていた距離がミドルの芦屋の練習会はずっと海底が見えていたので、あの大会だけは海を泳ぐ恐怖を感じたことは一度もなかったなー、なんて考えながら泳いでいた。

<ラン>

ランのコースは、2.5 kmをショートは2周回、ロングは4周回する。スイムアップして撮影してくれている妻にガッツポーズをしてから落ち着いて更衣。シューズはトライシューズではなく、いつものランシューズ。靴下をはかずトライシューズで走ると必ず爪下出血をするから、もうトライシューズは履かないことにした。

周りを見渡すと、スイムのタイムはそれほど良くないことがわかった。1週間前の門司港スクエア SWIM&RUN の疲れどころか、この日の前日、30年ぶりにスポーツクラブに行き、調子に乗って、ガンガン筋トレや普段使わない脚のトレーニングまでしていた。なんと計画性のないこと。まあ仕方がない。そんなことより、いつでも人生を楽しもう。毎日笑顔で過ごそう。それが大事。

さて、ランは折り返し走なので、多くの選手と顔を合わせることになる。しかし知った人がいなかった。ただ、「玄海」と印刷された古いランシャツを着た人がおられた。年齢は60代だろうか。過去に玄海 TC に所属されていた方だろうか。パンフレットは500円の有料だったので購入していなかったから、その方をお名前がわからないままであった。(そのパンフレット、4枚の印刷物だったのでぼったくりだと騒いでいた人がいた。)

ランはキロ5分ぐらいで走っていたつもりだが、私のガーミンは見にくくて、タイムがよくわからなかった。記録は53分29秒。トランジション、給水、水かぶりの時間を差し引いたら、まずまずのタイム。

身体が塩でベチョベチョなので、ググってスーパー銭湯を探した。3.5kmのところ「ふくの湯(早良店)」というのがあり、そこで汗と塩を流した。露天風呂が広くて、なかなか良かった。昼食はそのスーパー銭湯でそばを食べた。美味しかった。次回があれば、また利用しようと思う。

左画像：スタートの待ち時間。よく言えばリラックスだが緊張感がないだけ。

右画像：ショートの部の召集、点呼。ピンクのスイムキャップはカッコイイ。

